

白石市文化財調査報告書 第29集

市内遺跡発掘調査報告書 I

平成17年3月

白石市教育委員会

市内遺跡発掘調査報告書 I

序 文

宮城県白石市は福島県との県境に位置し、市指定史跡白石城跡をはじめとして多くの遺跡が所在しています。

当市では平成16年度に国宝重要文化財等保存整備費補助金・宮城県文化財保護補助金の交付を得て、市内遺跡発掘調査事業を実施しました。本書はそれらの調査結果をまとめたものです。

調査を行ったのは9地点で、そのうち5つの地点から縄文時代や古代の遺構・遺物が検出されています。調査要因は全て小規模な開発でしたが、市街地周辺部の遺跡が対象となつたケースが多くみられました。市街地から周辺部に宅地がさらに広がり、これまで農地などとして利用されてきた遺跡の状況が変化しつつある様子が見て取れます。

調査を実施した遺跡の中にはかつての調査の結果、古代の苅田郡衙跡と推定されている大畠遺跡や、平安時代の集落跡が発見された青木遺跡などが含まれています。以前の調査に比べ、本年度の調査は狭隘な調査区の非常に断片的なものです。しかし来年度以降も本事業を継続し、これらの調査結果を蓄積していくことで地域の歴史を解明し、今後の埋蔵文化財保護行政に資することができるものと思います。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたって多大なご理解・ご協力をいただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

平成17年3月

白石市教育委員会

教育長 高 橋 昌

目 次

序 文

例 言

1. 三部山遺跡	2
2. 青木遺跡	4
3. 大畠遺跡	6
4. 秩宜内遺跡	10
写真図版	13

例　　言

1. 本書は、白石市教育委員会が平成16年度に実施した市内遺跡発掘調査事業にかかる試掘調査結果の報告である。なお、本事業は国庫・県補助金の交付を受け、事業費は1,048千円（うち国庫補助524千円、県補助209千円）である。
2. 本事業は白石市教育委員会が主体となり、関係各位の協力を得て実施した。また、発掘調査をしたのは以下の地点であるが、これらのうち埋蔵文化財の発見されなかつた調査については本書から割愛した。

No.	遺跡名	遺跡番号	所在地	調査要因	調査期間
1	一本木遺跡	02101	白石市福岡深谷字一本木地内	家畜排せつ物処理法による堆肥舎新築	平成16年5月11日
2	三部山遺跡	02325	白石市福岡長袋字三部山地内	個人住宅新築	平成16年5月24～25日
3	白石沖遺跡	02132	白石市東町2丁目地内	個人住宅新築	平成16年7月20日
4	青木遺跡	02306	白石市福岡深谷字青木後地内	家畜排せつ物処理法による堆肥舎新築	平成16年8月5日
5	大畠遺跡	02262	白石市字東大畠地内	個人住宅新築	平成16年9月6日
6	白石条里制跡推定地	02400	白石市旭町5丁目地内	個人住宅新築	平成16年12月6日
7	祢宜内遺跡	02430	白石市字祢宜内地内	駐車場敷設工事	平成16年12月7日
8	大畠遺跡	02262	白石市字東大畠地内	個人住宅新築	平成17年2月22日
9	大畠遺跡	02262	白石市字不澄ヶ池、字大畠二番地内	宅地造成	平成17年3月9日

3. 土層の色調標記については、『新版標準土色帖』（小山・竹原、1996）を用いた。
4. 検出遺構の略号は以下の通りである。
S I : 壴穴住居跡 S K : 土坑 S B : 掘立柱建物跡
5. 本事業の調査は宮城県白石市教育委員会社会教育委員課の相原宏一・津田優佳が、報告書作成等は津田が担当した。
6. 発掘調査の実施、報告書の作成等にあたっては、次の機関・方々から多大なご協力をいただきました。記して感謝申し上げます。（敬称略、順不同）
武田康博、渡辺和之、小野正昭、金井設計事務所、佐久間正、佐久間哲英、スモリ工業株式会社、佐藤司、山崎哲男、山崎けい子、加藤勝典、佐久間文衛、佐藤勇吉、佐藤不動産、保科光宏、保科佳織、佐竹芳、佐竹正克、矢内キヨ子、星均治、工藤信子、佐藤博治、佐藤節子、上西正典、(有)住企画、(有)阿部工営社、中橋彰吾、佐藤洋一、伊藤博道、日下和寿、大谷基、家納久美、岡部とき子、宮城県文化財保護課、高橋建設(株)
7. 本事業の記録及び出土品は、白石市教育委員会社会教育課が保管している。



番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	三部山遺跡	散布地	縄文早・前	19	下ノ神明遺跡	散布地	縄文中・古代
2	青木遺跡	集落	縄文早・中・晚・弥生・平安	20	田上遺跡	散布地	縄文前・中
3	大畠遺跡	散布地・官衙	弥生・奈良・平安・中世	21	向山遺跡	散布地	縄文
4	称宜内遺跡	散布地	奈良・平安	22	陣場A遺跡	散布地	縄文
5	上高野遺跡	散布地・製鉄遺跡	縄文早～中・奈良・平安	23	小森遺跡	散布地	縄文・平安
6	三本木前遺跡	散布地	縄文前・後・晚・古代中世	24	河原沢遺跡	散布地	縄文
7	高野遺跡	散布地・製鉄遺跡	縄文早～後・古代	25	入屋敷前遺跡	散布地	縄文・古代
8	荒井遺跡	散布地・製鉄遺跡	縄文前～晚・弥生・古代	26	祇陀内遺跡	散布地	弥生～平安
9	御所内遺跡	集落	縄文早・中・後・平安	27	観音崎遺跡	集落	古墳後・平安
10	道内原遺跡	散布地・製鉄遺跡	奈良・平安	28	本郷遺跡	散布地	古代
11	市史跡堂田廃寺跡	寺院	平安	29	市史跡白石城跡	城館	近世
12	馬場先遺跡	散布地	縄文中	30	県史跡鷹巣古墳群	前方後円墳・円墳	古墳・古代
13	久保遺跡	散布地	縄文	31	北無双作遺跡	集落	古墳・奈良
14	田子屋敷遺跡	散布地	縄文	32	白石沖遺跡	散布地	縄文・古代
15	上ノ神明遺跡	散布地	縄文・平安	33	梅田遺跡	集落	弥生・古墳
16	馬場A遺跡	散布地	縄文	34	谷津川遺跡	散布地	縄文・弥生・古代・中世
17	馬場B遺跡	散布地	縄文	35	白石条里制跡推定地	水田跡	古代・中世
18	鹿野屋敷遺跡	散布地	縄文・古代	36	田中遺跡	散布地	縄文～中世

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

1. 三部山遺跡

I. 調査要項

遺跡名：三部山遺跡（さんぶやまいせき）

県遺跡番号：02325 遺跡記号：SA

所在地：白石市福岡長袋字三部山地内

調査要因：個人住宅新築

調査期日：平成16年5月24日（月）～5月25日（火）

II. 調査にいたる経緯

三部山遺跡は縄文時代早～前期に属する遺跡とみられている。この度の発掘調査は遺跡の範囲内に個人住宅を新築する計画が持ち上がったことに起因する。

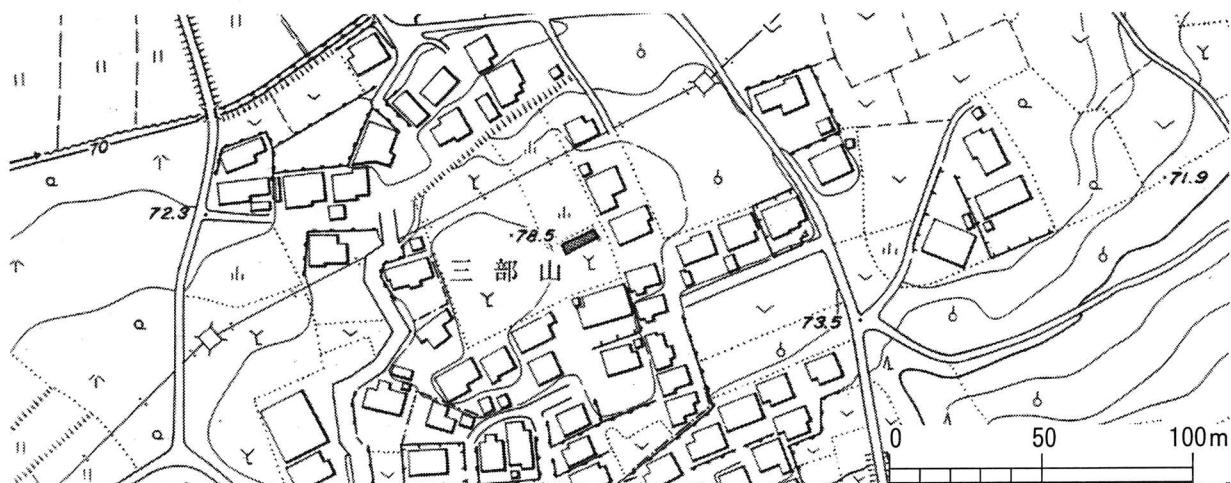
当初の工事計画では盛土などはしない計画であったことから、住宅の基礎が遺跡に影響を与える可能性があったため、建設予定地の下層の状況を把握するために発掘調査を実施した。

III. 遺跡の位置と環境

三部山遺跡は白石市福岡長袋字三部山地内に所在し、白石市役所の北方約2kmの地点に位置している。遺跡は舌状の段丘の標高70～79m付近に立地し、この段丘の縁辺にはいくつかの縄文時代の遺跡がまとまって存在している（第1図）。縄文時代前・中期の田上遺跡、縄文時代中期・古代の下ノ神明遺跡等である。

本遺跡は昭和51年に宅地造成に伴う発掘調査が実施されているが、遺構は検出されず、纖維を含む縄文土器や石鏃・尖頭器などの石器、多くの剥片などが出土している（白石市教育委員会 1977）。しかし、その後は本格的な発掘調査が行なわれておらず、遺跡の詳細についてはよく分かっていない。

この宅地造成の結果、遺跡の大半は込みあつた住宅と細い道路に姿を変えてしまったが、現在でもその中に1,900m²程の草原が残っており、今回の調査区はその一部に設定された。



第2図 調査区の位置

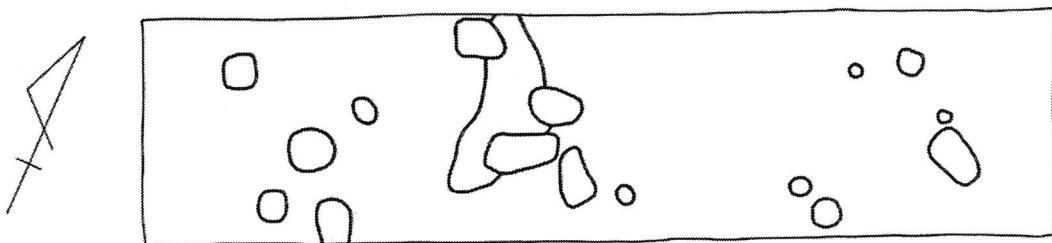
IV. 調査方法と成果

調査は届出のあった481m²のうち、住宅新築予定地の一部である36m²について実施した。調査区の基本層序は第1層：暗褐色粘土質シルト層（表土）、第2層：褐色粘土質シルト層、第3層：褐色シルト層（遺構確認面）である。

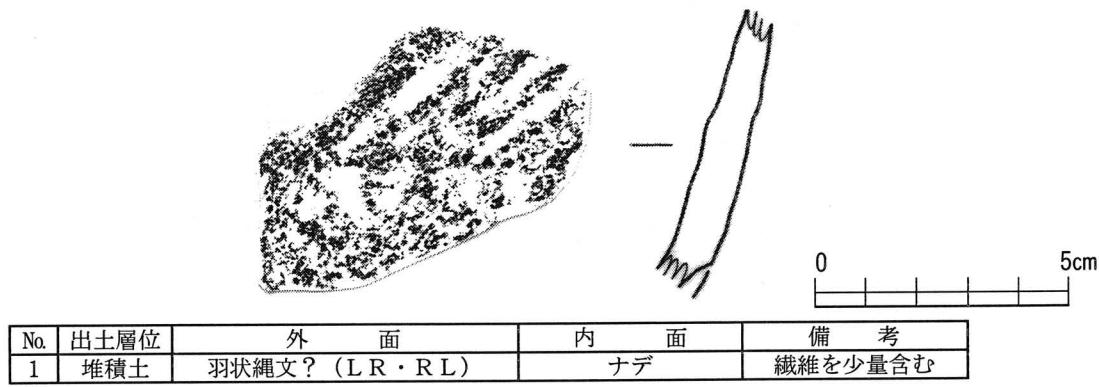
調査の結果、表土から30～45cmの深さでピット及び土坑群が検出された（第3図）。ピットは直径が20～60cm程である。土坑の形状は細長く、長軸70cm～1m、短軸40～50cm程である。なお、遺構の平面形が検出された段階で事業者と再協議をしたため、基本的に掘り下げは行なっていない。

遺物は遺構確認面から纖維を含む縄文土器片等が数点出土しているが、いずれも小片のため、図示できたのは1点のみである（第4図）。

なお、遺構検出後は遺跡の取り扱いについて事業者及び宮城県文化財保護課と再度協議し、遺跡の保存のために盛土することで双方の合意が得られたため、遺構の平面形を写真・図面で記録し、埋め戻した。



第3図 遺構配置図 (S=1/100)



第4図 三部山遺跡出土遺物

V. 考察とまとめ

今回の調査でピット及び土坑群が検出された。遺物は纖維を含む縄文土器が出土しているが、図示した以外には遺物がほとんど出土しなかったことや、調査が遺構の平面形の検出に留まることなどから遺跡の詳細については不明な点が多い。しかしこの結果からみて、これまでに理解されてきた縄文時代草～前期の遺跡であるという見解と矛盾はないものと考えられる。

今回の調査で遺構が初めて確認されたことで、住宅地内に残る草原には三部山遺跡の一部がいまだ残存していると考えられる。

2. 青木遺跡

I. 調査要項

遺跡名：青木遺跡（あおきいせき）
県遺跡番号：02306 遺跡記号：AK
所在地：白石市福岡深谷字青木後地内
調査要因：堆肥舎新築
調査期日：平成16年8月5日（金）

II. 調査にいたる経緯

堆肥舎の建築は平成11年11月施行の「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律（以下、家畜排せつ物処理法）」により家畜の排せつ物の管理が強化され、これまでのように堆肥の野積みが行なえなくなったことによる。このため、施行から5年間の猶予期間を経た平成16年11月1日の家畜排せつ物処理法の完全施行に向け、平成15年9月～平成16年10月にかけて酪農家等による堆肥舎建築の申請が多く提出された。本件もその中の1つだったが、埋蔵文化財との関わりが認められたため、地下の状況を把握することを目的に発掘調査を行った。



第5図 調査区の位置

III. 遺跡の位置と環境

青木遺跡は白石市福岡深谷字青木後・青木脇ほかに所在し、東北自動車道白石ICの南西約900mに位置している。西方には蔵王山脈から派生する山並みが迫り、白石川の支流である児捨川北岸の標高40～60m程の河岸段丘上に立地する。本遺跡はおよそ縄文時代～平安時代に属するとみられ、深谷地区は市内でも遺跡の分布密度が特に濃いことで知られている（第1図）。集落跡のほか、上高野遺跡・高野遺跡・荒井遺跡などの製鉄遺跡もいくつか存在しており、早くから発掘調査が行われてきている（白石市史編さん委員編 1976）。

本遺跡も東北自動車道関連で昭和43年と46年に発掘調査が行なわれた。その結果、

21棟の表杉ノ入式期の竪穴住居跡を中心として、墨書土器、刀子や紡錘車などの鉄製品、木製の竪杵など多くの遺構・遺物が検出され、平安時代に大規模な集落が形成されていたことが確認された（小川淳一 1980）。

遺跡の現状は畑地や水田で周囲には農家が多く、道路敷設部分などを除き、遺跡の保存状態は良好とみられる。また、事業者によれば以前から畑内に赤変した部分（炉跡）が発見されることがあるとのことで、遺構面までの深さはごく浅い場合もあるようである。

IV. 調査方法と成果

調査は届出のあった2,821m²のうち、堆肥舎建築予定地の一部である42m²について実施した。調査区の基本層序は第1層：黒褐色粘土質シルト層（表土）、第2層：暗褐色粘土質シルト層、第3層：褐色砂質シルト層（遺構確認面）である。

調査の結果、表土下20～25cmの深さから土坑8基が検出された（第6図）。土坑は主に円形を呈し、大きさは直径90～150cm程である。

遺構の平面形が検出された段階で事業者と再協議したため、遺構の掘り下げを実施したのはこれらのうちの2基のみである。以下にそれぞれの遺構について記す。

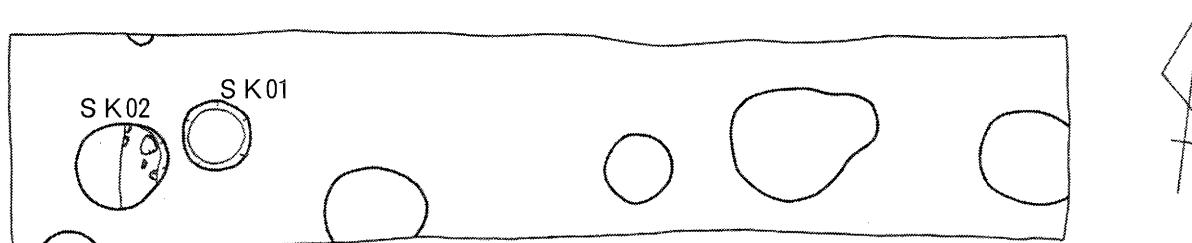
・SK01土坑

調査区西側の第3層で検出された。直径は92cmで、底面までは10cmと浅い。堆積土中からは土師器片が少量出土したが、小片のため図示できるものはなかった。

・SK02土坑

調査区西側の第3層で検出された。底面までの深さは遺構確認面から52cmで、土坑底面付近からは直径10～20cm程の礫が検出されている。堆積土中からは土師器片が少量出土しているが、小片のため図示できるものはなかった。

なお、これらの遺構検出後は遺跡の取り扱いについて事業者及び宮城県文化財保護課と再度協議し、遺跡の保存のために盛土することで双方の合意が得られたため、遺構を写真・図面で記録し、埋め戻した。



第6図 遺構配置図(S=1/100)

V. 考察とまとめ

今回の調査で土坑8基と少量の土師器片が出土した。ほとんどが平面形の検出に留まったことや、年代の分かる遺物等が出土しなかったため、遺跡の時期や性格等については不明であるが、おおむね古代に属するものとみられる。この辺りも周辺地域と同様に濃い遺跡分布が続いていると考えられる。

3. 大畠遺跡

I. 調査要項

遺跡名：大畠遺跡（おおはたいせき）

県遺跡番号：02262 遺跡記号：OH

所在地：白石市字東大畠・不澄ヶ池地内

調査要因：個人住宅新築

調査期日：平成16年9月6日（月）、平成17年2月22日（火）、
平成17年3月9日（水）

II. 調査にいたる経緯

大畠遺跡は弥生時代～中世に属し、養老5年（西暦721年）に建郡された菟田郡の郡衙跡と推定されている遺跡で、これまでにも道路の建設などに伴いたびたび発掘調査が行われてきている。しかし、これまでの調査は開発に伴うものであったことから断片的なものが多く、遺跡の構成については不明な点が多い。

当市において大畠遺跡は近年最も宅地化されている遺跡の1つで、今年度も3地点で発掘調査が行われた。調査要因はいずれも個人住宅建築や、宅地造成工事である。各々の計画では遺跡に直接的な影響を与えない程度の盛土が計画されていたが、住宅を建築する前に土地所有者の方々のご協力を得、遺跡の状況を確認するために発掘調査を実施した。



第7図 各調査区の位置

III. 遺跡の位置と環境

大畠遺跡は白石市字大畠一番・大畠二番・東大畠ほかに所在し、東北本線白石駅のすぐ北方に南北 750 m・東西 850 m の広い範囲で位置している（第 1 図）。白石川と斎ヶ川によって形成された自然堤防上に立地し、遺跡の東辺は白石盆地を北流する斎ヶ川に接している。標高は約 40 ~ 45 m で大部分は畠地や水田であるが、東北本線西側はすでに密集した宅地となっており、東側部分も近年は徐々に宅地化が進行しつつある。

本遺跡はこれまでに国道 113 号線バイパス建設に伴う発掘調査がなど実施された（近藤和夫 1991 ほか）。これらの調査では掘立柱建物跡や礎石総柱建物跡、溝跡などの遺構や瓦などの遺物が出土している。その結果、苅田郡衙と関連する可能性も指摘されているが、この度の調査地点はこれらの調査区から真北に 160 m の地点に位置している。

周囲には斎ヶ川を中心に遺跡が多く見られ、観音崎遺跡、北無双作遺跡、梅田遺跡などの集落跡がある。また、昭和 15 ~ 23 年の斎川河川改修工事の際には堤防沿いから多くの完形品に近い土師器が発見されている（白石市史編さん委員編 1976）。

また、東方に位置する鷹巣丘陵上には宮城県指定史跡の鷹巣古墳群が造営され、斎ヶ川西岸には銚子ヶ盛古墳が、大畠遺跡の南東 1 km ほどの地域には白石条里制跡推定地が所在する。

IV. 調査方法と成果

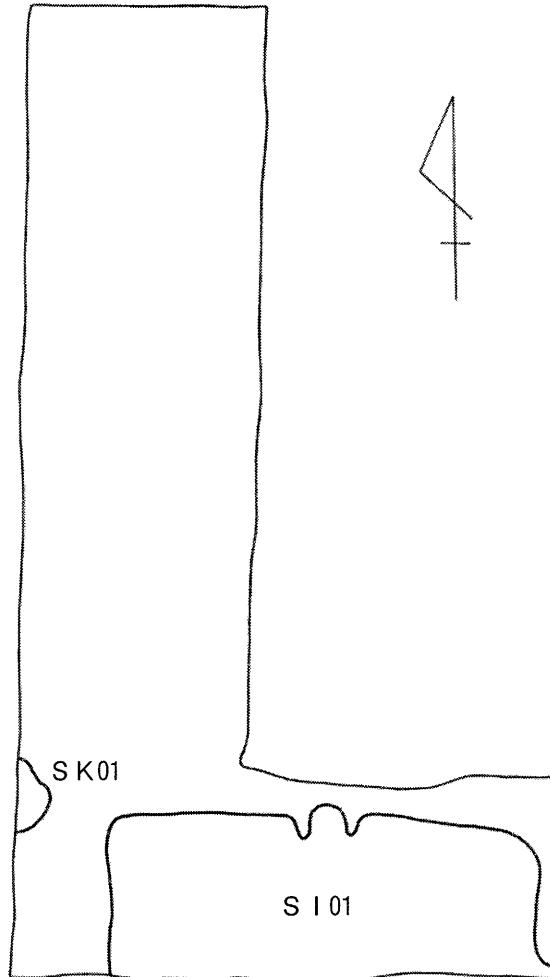
大畠遺跡で発掘調査を行った 3 地点のうち、2 地点から遺構・遺物が出土した。以下にそれらの出土内容について記す。

【地点①：平成 16 年 9 月 6 日実施】

調査は届出のあった 474m² のうち 46m² について実施した。調査区の基本層序は第 1 層：にぶい黄褐色粘土層（表土）、第 2 層：黒褐色シルト質粘土層、第 3 層：にぶい黄褐色シルト層（遺構確認面）である。

調査の結果、調査区の南側で表土下 80 cm ほどの深さから住居跡 1 棟・土坑 1 基が検出された（第 8 図）。また、遺物は S I 01 住居跡から土師器片が数点出土している。

なお、大畠遺跡では 3 地点の発掘調査を実施しているが、いずれの調査についても遺構の平面形が検出された段階で事業者と再協議をしたため、基本的に掘り下げは行なっていない。



第 8 図 遺構配置図① (S=1/100)

以下にそれぞれの遺構について記す。

・ S I 0 1 住居跡

調査区南側の第3層で検出された。完全に検出できたのは北辺1辺のみだが、その長さは約5.3mである。北辺中央部にはカマドが位置している。住居跡の堆積土中からは土師器片が少量出土している。土師器片は外面にハケ目、内面にヘラナデの調整が確認できるもののほか、内面が黒色のものもみられるが、小片のため図示できるものはなかった。

・ S K 0 1 土坑

S I 0 1 住居跡の70cmほど西側の3層から検出された。平面形の一部が検出されただけであるため、全体形は不明である。遺物は確認されていない。

なお、遺構検出後はこの度の工事による遺跡の破壊は免れることから、遺構の平面形を写真・図面で記録し、埋め戻した。

【地点②：平成17年2月22日実施】

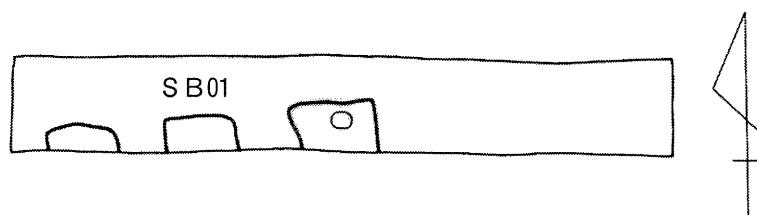
調査は届出のあった585m²のうち、9m²について実施した。調査区の基本層序は第1層：にぶい黄褐色粘土質シルト層（耕作土）、第2層：褐色砂質シルト層、第3層：黒褐色粘土質シルト層、第4層：褐色砂層（遺構確認面）である。

なお、調査区が届出対象面積に対してこのように狭隘になったのは、当該地が畠として利用されていたため、調査を行なえる範囲に制約を受けたためである。

調査の結果、表土下85cmほどの深さから掘立柱建物跡とみられる柱穴3基が検出された（第9図）。遺物は表土や堆積土中にまばらに散見されたが、いずれも小片で図示できるものはなかった。以下に遺構の概要について記す。

・ S B 0 1 掘立柱建物跡

調査区西半部の第4層から検出された。柱穴は3基で、平面形が完全に検出されたものはないが、方形を呈している。柱穴の1辺の長さは80～90cm、柱間は1.6～1.7mである。以前の調査で検出されている建物跡は、建物の方向が真北から西に1°偏しているものが確認されているが（八嶋伸明 1995）、今回の限られた範囲から推測できるS B 0 1 建物跡の方向は真北から4°程西に偏しているとみられる。



第9図 遺構配置図② (S=1/100)

V. 考察とまとめ

今年度は大畠遺跡での発掘調査は3地点で実施した。地点①からは住居跡と土坑が検出され、住居跡の堆積土中から出土した遺物と遺構の形態の特徴からみて、おおむね住社式期～栗団式期のものとみられる。

地点①は掘立柱建物跡などが検出された国道113号線バイパス建設に伴う発掘調査区から北に160mの地点であったが、直接荔田郡衙に関わる遺構や遺物などは確認されなかつた。

地点②では掘立柱建物跡が1棟検出されている。今回の調査では時代のわかる遺物が出土していないため、遺構の時期などは不明である。建物跡の方向は以前の調査のものと若干異なっているようだが、今回は建物跡のごく一部を検出したにすぎず、これのみで判断するのは難しい。地点②は国道113号線バイパス建設に伴う発掘調査区から北に130mの地点である。

地点③では遺構・遺物の出土がなかったため、本書では割愛した。しかし、周辺の畠地で土師器片が表採されることから、周囲に何らかの遺構が存在するとみられる。これまで大畠遺跡の調査はJR東北本線東側を中心としていたため、西側ではどのような広がりを持つのか興味がもたれる。

4. 梶宜内遺跡

I. 調査要項

遺 跡 名：梶宜内遺跡（ねぎうちいせき）

県遺跡番号：02430 遺跡記号：NG

所 在 地：白石市字梶宜内地内

調査要因：駐車場敷設工事

調査期日：平成16年12月7日（火）

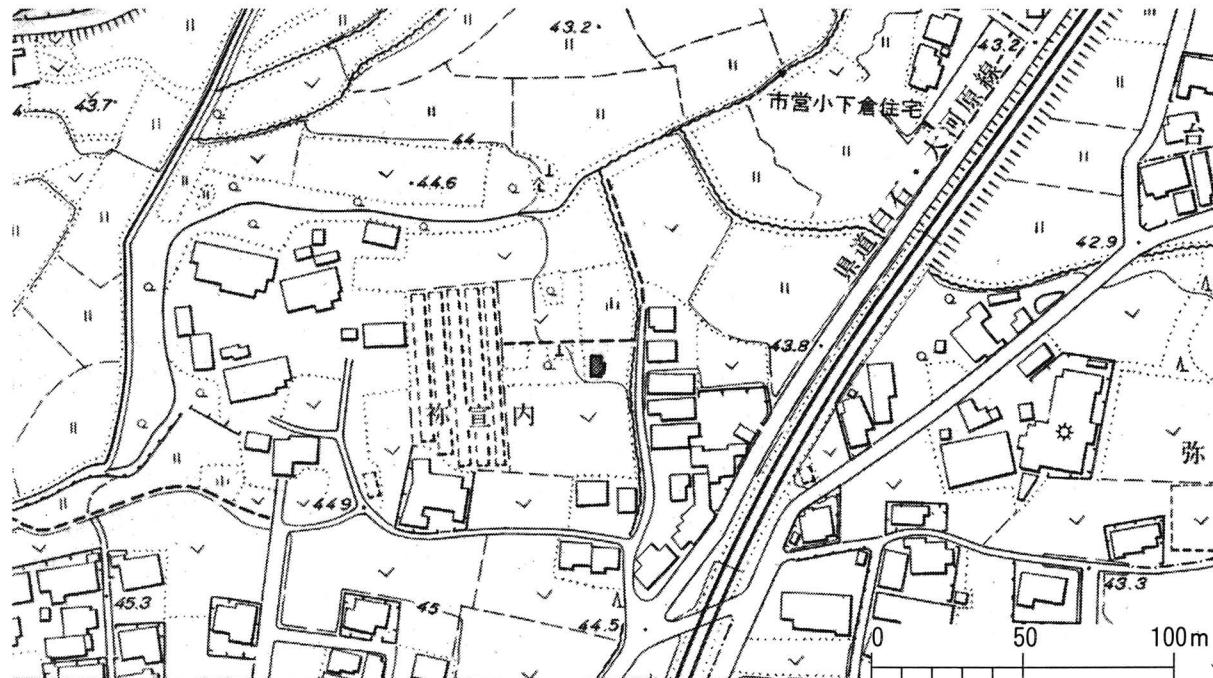
II. 調査にいたる経緯

梶宜内遺跡は大畠遺跡に隣接し、奈良・平安時代の遺跡であるとみられている。しかしこれまでに梶宜内遺跡で本格的な発掘調査が行なわれたことはなく、遺跡の内容について不明な点が多い。そこで、今回の駐車場敷設工事は地下への影響はほとんどないものであったが、事業主・土地所有者の方々のご協力を得、遺跡の状態を確認するために発掘調査を実施した。

III. 遺跡の位置と環境

梶宜内遺跡は白石市字梶宜内・十王堂北ほかに所在し、東北本線白石駅の北方約750mに位置している。白石川と斎ヶ川によって形成された自然堤防上に立地し、これらの川は梶宜内遺跡から1kmほど北の地点で合流する。標高は約40～45mである。

本遺跡は苅田郡衙跡と推定されている大畠遺跡の北隣に位置する。遺跡は白石川と、白石川の支流である斎ヶ川によって形成された自然堤防上に立地し、斎ヶ川沿いには古



第10図 調査区の位置

代の遺跡が数多く分布している。それらには集落跡である観音崎遺跡、北無双作遺跡、梅田遺跡などがあり、斎ヶ川の河川改修工事の際には多くの遺物が採集されている（白石市史編さん委員編 1976）。

遺跡の現状は大部分が水田及び畠地であるが、遺跡の南端から住宅が建設されはじめしており、徐々に遺跡の状況が変化しつつある。

IV. 調査方法と成果

調査は届出のあった 323m^2 のうち 23.8m^2 について実施した。調査区の基本層序は第1層：暗褐色シルト（表土）、第2層：暗褐色砂層、第3層：褐色砂層（遺構確認面）である。

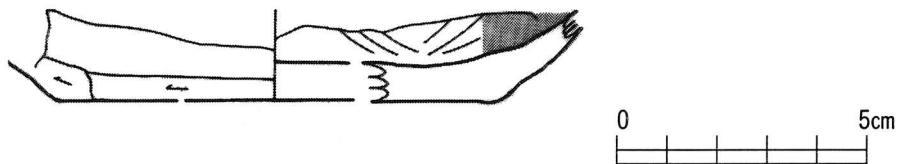
調査の結果、調査区南東部の表土下 85cm ほどの第3層から土坑1基が検出された（第11図）。調査区の北側および南西部は礫層となっている。

土坑の平面形は歪んだ長方形で、長軸は 158cm 、短軸は 85cm である。底面までの深さは 16cm で、堆積土中には直径 $10 \sim 18\text{cm}$ の礫がいくつか確認されている。遺物は周辺の堆積土および遺構確認面より数片の土師器片が出土した。SK01土坑の堆積土からも土師器片と須恵器片が少量出土している。土師器には壊底部片、口縁部片などがある。土師器にはロクロを使用したものもみられ、内面に黒色処理が施され、ヘラケズリが施されているものもある（第12図）。

なお、遺構検出後は工事による遺跡の破壊は免れることから、遺構の平面形を写真・図面で記録し、埋め戻した。



第11図 遺構配置図
(S=1/100)



No.	種別・器種	出土層位	調 整		法 量		
			外 面	内 面	口径	底径	器高
1	土師器・壊	堆積土	ロクロナデ→ヘラケズリ	ヘラミガキ・黒色処理	-	(8.2)	-

第12図 SK01 土坑出土土器

V. 考察とまとめ

今回の調査では検出された遺構は土坑1基のみで、その堆積土中からは土師器片・須恵器片が出土しており、それらの土器の特徴から表杉ノ入式期のものとみられる。土坑の性格については不明である。祢宜内遺跡については本格的な発掘調査が実施されたことはなく、遺跡の内容の把握は今後の調査に期待したい。

主要参考文献

- 八嶋伸明（1995）「大畠遺跡」『宮城県文化財調査報告書 168集 大畠遺跡ほか』
宮城県教育委員会
- 近藤和夫（1991）「大畠遺跡」『宮城県文化財調査報告書第 144集 館南団遺跡ほか』
宮城県教育委員会
- 小川淳一（1980）「(2) 青木遺跡」『宮城県文化財調査報告書第 71集 東北自動車道
遺跡調査報告書Ⅱ』宮城県教育委員会
- 中橋彰吾ほか（1977）『白石市文化財調査報告書第 17集 三部山遺跡調査報告書』
白石市教育委員会
- 白石市史編さん委員編（1976）『白石市史 別巻 考古資料篇』白石市
- 氏家和典（1957）「東北土師器の型式分類とその編年」『歴史』第 14 輯

写 真 図 版



写真1 調査区全景（三部山遺跡）



写真2 遺構検出状況（三部山遺跡）



写真3 遺構検出状況（青木遺跡）



写真4 SK 01（青木遺跡）

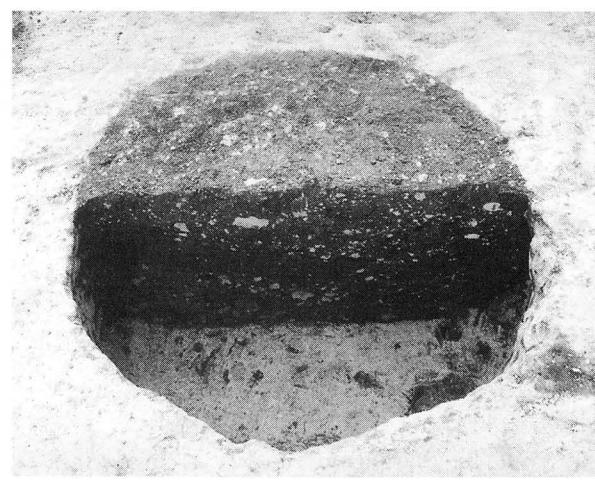


写真5 SK 02（青木遺跡）



写真6 調査区全景（大畠遺跡地点①）



写真7 S I 01（大畠遺跡地点①）



写真8 S B 01（大畠遺跡地点②）



写真9 調査区全景（祢宜内遺跡）



写真10 S K 01（祢宜内遺跡）

報 告 書 抄 錄

**白石市文化財調査報告書 第29集
市内遺跡発掘調査報告書 I**

平成17年3月25日印刷

平成17年3月30日発行

編集・発行 白石市教育委員会

〒989-0292 白石市大手町1-1

電話：0224(22)1343

印 刷 (株)不忘印刷所

〒989-0273 白石市字中町25

電話：0224(26)2070

